

2020年2月26_28日

017D組クラス有志旅行

津軽海峡冬景色行

2020年2月津軽海峡冬景色行

羽田⇒青森⇒龍飛崎⇒今別⇒中里⇒金木⇒
ストーブ列車⇒五所川原⇒弘前⇒青森⇒羽
田

日程・集合：2月26日水～28日金 2泊3
日 ※集合：2/26(水) 6時45分,羽田空港
国内線 JAL チェックイン・カウンター

行程：

2020/2/26 (水)

羽田空港 7:45(日本航空,JAL141)⇒9:10 青
森空港※楽天トラベル『JAL 楽パック』
青森空港 9:45(JR バス東北,青森行き,710
円)⇒10:20JR 青森駅

【青森港(青森市)】青函連絡船メモリアル
シップ八甲田丸(徒歩5分,510円)、ねぶた
の家ワラッセ(徒歩1分,600円)⇒昼食⇒青
森駅前交番 12:50(ホテル無料送迎バ
ス)⇒14:40 龍飛崎温泉『ホテル竜飛』

【龍飛崎(外ヶ浜町)】津軽海峡冬景色歌謡
碑(徒歩8分),階段国道339号(徒歩5分),龍
飛崎(徒歩7分)

2020/2/27 (木)

ホテル竜飛 9:00(ホテル無料送迎バ
ス)⇒9:40 奥津軽いまべつ駅 奥津軽いま
べつ駅 10:50(弘南バス,津軽中里駅前行
き,1,200円)⇒11:50 津軽中里駅前(津軽鉄
道,400円)12:04⇒12:18 金木(かなぎ)⇒
昼食⇒

【金木町】太宰治疎開の家(旧津島家,徒歩
3分,500円),太宰治記念館『斜陽館』(徒歩

7分,500円),津軽三味線会館(徒歩7分,500
円)

金木 16:12(【津軽鉄道『ストーブ列
車』],560円+400円)⇒16:38 五所川原 五
所川原 16:46(JR 五能線,弘前行き)⇒17:26
弘前⇒夕食

2020/2/28 (金)

【弘前市】弘前城公園(320円)⇒藤田記念
庭園⇒旧弘前市立図書館(無料)⇒弘前市立
山車展示館⇒昼食⇒青森銀行記念館(200
円)⇒最勝院五重塔(無料)(タクシー10分
/1000円)⇒津軽藩ねぶた村(タクシー10分
/1000円でホテルへ)⇒弘前駅前16:16(弘南
高速バス,青森空港行き,1,200円)⇒17:10 青
森空港⇒夕食

青森空港 20:30(日本航空,JAL150)⇒21:55
羽田空港

参加者

井上哲男、小林偉昭、武馬友義、播磨英一、
樋口富美子、横山とみ、蠟山丈夫

2020/2/26 (水)

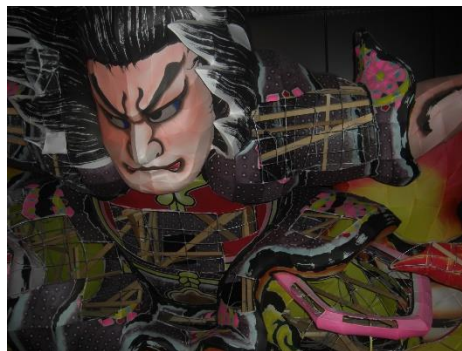
羽田空港の JAL チェックインカウンター前
で集合。蠟山が待っていて、到着順にチェ
ックイン(タッチ&ゴー)でゲートに向か
わせている。羽田空港 7:45 発で青森空港
9:10 着。青森空港でしばらく青森駅行きバ
スの出発までロビーで待つ。雪は降ってい
ない。青森空港 9:45 発で JR 青森駅 10:20
着。途中雪が少し見えるだけだ。雪が少な
い。青森の駅前広場は雪がない。青森駅の
ロッカーに井上は荷物を預ける。

サー青森港観光開始。青函連絡船メモリア
ルシップ八甲田丸の船内見学。昭和 30 年
代の青森駅前と青函連絡船待合室の様子を

ジオラマ「青函ワールド」で展示している。平成 23 年 9 月まで東京「船の科学館」別館「羊蹄丸」内で展示していたものを、保存を望む有志の声が高まり、この「八甲田丸」に移設された。当時の JR の旅客運賃表や発車時刻表も展示されていた。ミニシアター見学後、4 階の操舵室を見学。エレベーターで 1 階に下り、当時の車両が展示されている。エンジンルームなどを見学し、終了。当時の乗船場所はどこだろうかと展示物を見ていたが、どうも今の八甲田丸のところではないような気がするのでウェブで調べた。列車内で乗船名簿を記入し、乗船口で名簿を渡していた。青森駅の栈橋は、第一から第三栈橋まであり、旅客は、第一と第二の栈橋を利用していた。貨物専用は、第三栈橋。八甲田丸は第 2 栈橋に係留されている。



次は、ねぶたの家ワ・ラッセを見学。大型のねぶたが多数展示されている。現在多くは針金で形が作られているが、以前は竹を使用していたようだ。今は電灯だが、昔はローソクを使用していて、焼けてしまうことも多かったようだ。青森県には 20 近くの地方独自の祭りがあるという。制作者の名前が必ず載っている。ねぶた制作だけで生活ができるのか気になったので、一年中作っているのか、ある期間だけなのかと質問する。有名な製作者はいくつもつくるので、一年中作っている。が、一つだけの制作では、生活費を稼ぐため、兼業してる人が多いという。ねぶたとねぶたがある。農繁期前の夏の農作業の敵となる睡魔を追い払う風習として見られるもので、「眠り」が転訛したものだという。ねぶた一やねぶたは、地方特徴の方言（訛り）で呼ばれるようになったという。ここで昼食をとる。7人でビール5本。隣は9人でビール4本だった。良く飲む仲間だ。





ホテル無料送迎バスで龍飛崎温泉『ホテル竜飛』へ移動。井上のロッカーから荷物を取り出すのに時間がかかっている。

バス出発の時間もあるので、蟬山と小林が見に行くと何度も同じことを繰り返し、毎回エラーとなっている。電話で手助けを頼む。何と、預けたときのチケットにはロッカーの扉の番号4桁のほかに、大きな文字で鍵番号と6桁の数字が書かれている。しかし、井上は0204番のロッカーを利用したので、開錠に何度も鍵番号として0204を入力し、エラーとなっていた。ロッカーの画面にはチケットのここに書かれている数字（鍵番号）を入力するよう指示されている。しかし、焦っていたのか井上は、そこに気が付かずロッカー番号を何度も入力し、ますます混乱してしまったようだ。冷静に考えれば、ロッカー扉の番号を入力して開錠するのであれば、誰でもロッカーを開けてしまうことができる。そんなことはあり得ないと分かったはずだが、焦ると何が起きるか分からないものだ。出発時間の残り時間も少なくなってしまったが、蟬山は部屋飲みようの焼酎ボトルを買いに忙しく走って行く。どうにか購入でき、バスは出発した。



青森駅前交番 12:50 発で、龍飛崎温泉『ホテル竜飛』に 14:40 に着く。途中の山では雪が積もっているところもあったが、津軽半島の先端に行っても雪はそれほど多くない。チェックインをする。ロビーの直下を新幹線が通っているという。15:00 から龍飛岬見学に出かける。津軽海峡冬景色歌謡碑でボタンを押して歌を聴きながら、見学をする。歌謡碑や北海道（福島町）をバックに集合写真を撮る。移動時に再度歌を聴く。竜飛岬という表記は、津軽海峡冬景色の歌の中だけの表記のようだ。



階段国道 339 号は、階段が雪で滑るということで、閉鎖中であった。雪が積もっていないのに、頑丈な閉鎖版を写真に撮る。龍飛崎灯台のある頂上まで昇って行く。風の龍飛岬とか言うが風もなく、地吹雪の龍飛岬と言うが雪も降っていない・積もっていない龍飛岬は珍しいのでは。北海道がきれいに見える。しばらく周囲を見学する。そろそろ4時も過ぎたので、ホテルに戻る。帰りに三度目の冬景色の歌を聴く。大きな音で遠くまで聞こえてくる。

ホテルの係の人にタッピに龍飛、竜飛と表記がバラバラの理由を聞いたが、どちらでもよいですよとの回答。ハーそうです

か。ウェブで調べても、調べるほどよくわからないという結論で納得することにする。埼、崎、岬も混乱状態。



部屋は和洋室のツインルームでゆったりできた。温泉は、カルシウム・ナトリウムの硫酸塩泉で、なめると少し塩味がした。露天風呂はやはり寒いので、室内温泉でしばし楽しむ。5時30分から夕食。料理はおいしかった。ビールで始まり、地元のお酒を飲む。ワインは少し薄味の感じだった。



部屋飲みに移り、懇親を深めていく。ただ、何を話し合ったかは記憶に残っていない。

2020/2/27 (木)

テレビで北海道は晴れと言っている。朝風呂を楽しみに行く時、窓の外を見ると何と白い雪世界になっていた。やっと龍飛岬の

雪景色を楽しむことができた。



朝食。以前、上皇夫妻も休憩でホテル竜飛に来られたようだ。集合時間9:00に集まるが、横山さんが何か部屋に忘れたようで急いで取りに行く。9:10 ホテル竜飛発の無料送迎バスで9:40に奥津軽いまべつ駅に着く。バスは10:50発なので、あと10分でバスが来ると思ってしまい、バス停で待つ。しかし、10時50発なので実はまだ1時間以上あるのに気が付き、唯一の飲み食いとお茶ができる道の駅でゆっくり買い物やお茶を飲むことにした。道の駅そばにJR東日本の津軽二股駅がある。女性の鉄道関係者がジーと立っている。また線路にはチカチカ点滅する明かりが設置されている。



聞くと、駅と駅の間で、雪かきをしているので、列車に知らせるためのものだという。山の斜面からの雪崩れ防止のようだ。奥津

軽いまべつ駅 10:50 発のバスで、津軽鉄道津軽中里駅前に向かう。乗ったのは我々7人だけ。



途中の山越えでは道路が雪で覆われていた。しかし、津軽中里駅周辺は雪がなくなっている。最後まで誰も乗ってこなかった。津軽中里駅 11:50 着で、金木駅行きのチケットを購入。珍しい硬券であった。駅続きの建物でいろいろなものを売っている。青森県はコロナウイルスがまだゼロの県であるのか、マスクもバラで売っていた。12:04 津軽中里駅発の走れメロス号は1両だけ。



乗り込むと駅員が忘れ物と言ってバッグを持ってきた。忘れ物をした人は、井上だった。乗り込んだ時には我々7人だけ。途中で若者が1名乗り込んできた。太宰の本がいくつか置かれている。走れもメロスの本もあるので、その出だしを写真に撮る。

「メロスは激怒した。必ず、……」。12:18 に金木駅に着く。若者も降りた。昼食は金木駅続きの2階にあるレストランぽっぽ家ですることにした。十三湖のシジミが有名なので、しじみ定食を頼む人が多かった。また、りんごギョーザも楽しむ。かすかにりんご味がしているようだ。当然ビールも頼む。小林は、津軽そばも食べたいし、しじみラーメンも食べたいので、決断し両方を注文した。しかし、両方とも麺がしっかりしていなく、おいしくなかった。なお、シジミは20個入っていた。落ちた果実を炭にしたりんご炭が飾ってあった。

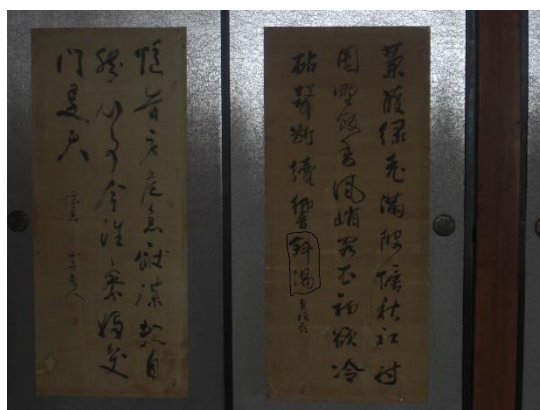


金木町の見学開始。雪はない。太宰治疎開の家(旧津島家)をガイド付きで見学する。旧津島家は、地元で有数の大地主で金貸業を営むほどであった。県でも4番目の素封家で大豪邸を持っていた。農地改革などの影響で、豪邸は売りに出され、それが今の斜陽館の場所。大正11年、太宰の兄・文治夫婦の新居(新座敷)として建てられた津島家の離れを、青森県知事となった頃、母屋から切り離し(曳家し)居宅とした。太宰の左翼運動や不品行などが理由で兄より義絶されて、東京で活動していた。33歳の時、病床の母を見舞う機会を与えられ、この時以降兄との確執が徐々に溶けて行ったという。昭和20年夏、疎開した太宰治が暮らした家となった。平成18年秋から一般公開された。太宰はこの家で「バンド

ラの匣」「苦悩の年鑑」「親友交歓」「冬の
花火」「トカトントン」など、23 の作品を
執筆した。執筆していた机があり、松木さ
んが座り記念写真を撮る。



次は、太宰治記念館『斜陽館』に行く。1
階 11 室 278 坪、2 階 8 室 116 坪、付属建
物や庭園などを合わせて宅地約 680 坪の豪
邸だった。ヒバの床の通路が立派。売却後
は、最近まで旅館として利用されていたと
いう。二階の部屋は人気があったという。
まず文庫蔵展示室を見学し、次に 1 階から
2 階を見ていく。2 階の和室の襖に「斜陽」
の二文字を見つける。



最後は、そばの津軽三味線会館の見学。演
奏開始まで時間があるので、松木さんと横
山さんはお寺(?) 見学に行く。残りは、
津軽三味線の歴史展示を学んでいく。津軽
三味線の元祖は仁太坊で、8 歳の時疱瘡で
失明し、12, 3 歳の時に女三味線弾きから
手ほどきを受けたと伝えられている。1 時
間ほどのビデオが流れていた。三橋美智也
も三味線がうまかったようだ。15:00 か
ら三味線演奏を 20 分ほど楽しむことがで
きた。観客は我々 7 名だけ。我々がいなか
ったらどうしたのだろうと心配する。



良く晴れている。太宰が疎開した家の前を
歩いて、金木駅に戻る。ストーブ列車のチ
ケットを購入。乗車券のほかにストーブ列
車券の購入が必要。ともに硬券であった。
写真に撮る。時間があったが、2 階のレス
トランは本日は都合で 15:00 以降は閉め

ている。仕方がないので駅の入り口でしばらく休息する。今日のストーブ列車は、蒸気機関車が引くのではなく、ディーゼル機関車の走れメロス号が引く2両編成だった。金木駅 16:12 に出発し、五所川原駅に向かう。26分しか乗車していない。乗車すると、男性1名と女性2名ストーブ列車の係が待っていた。蠟山はすぐにするめを注文する。一つ500円。係りの2女性が2か所にあるストーブでするめをあぶってくれる。手袋をしていて、手で直接イカをひっくり返し、曲がらないように押さえつけている。ビールを頼み、出来上がるのを待つ。出来立てのするめをしゃぶる。熱い。ストーブのそばは暑い。



飲み終わるとのほぼ同じころ、16:38 に五所川原駅に着く。五所川原で JR 五能線に乗り換え、16:46 弘前行きで弘前に向かう。川部で奥羽本線に切り替わる。乗り換えずに、17:24 に川部で反対向きに走り出し、17:35 に弘前駅に着く。

駅前の東横ホテルにチェックイン。18:30 頃にタクシーで夕食会場の「あどはだり」という居酒屋に向かう。あどはだりは、津軽三味線を楽しめる居酒屋で有名。店長の女性が、津軽三味線を弾く。美容師をしながら、父親が営んでいた居酒屋で三味線を弾いていたが、父親の死後、居酒屋と店長を引き継ぎ、津軽三味線の演奏をしているという。19:00 から演奏を開始してくれた。1m ほどのところで演奏する津軽三味線の音は、耳にガンガンと響いてきた。迫力がある。強くはたかくので、津軽三味線の皮は猫ではなく、犬だと言う。店員の女性は中国の人で、蠟山は中国語で会話をし始める。なお、「あどはだり」とは、津軽弁で「もう一度」「おかわり」「アンコール」という意味とのこと。



2 時間ほどでホテルに戻る。武馬は麻酔医の仲間としばしの会話と飲酒に一人で出かける。

2020/2/28 (金)

朝、窓から外を眺めると、一面雪景色となっている。二日とも夜に雪が降り、翌朝は雪景色。ついでに。龍飛岬と弘前の雪景色を楽しめた。東横インの朝食は、あっさりとしたもので、納豆や海苔がないのにはびっくりした。9:00 にチェックアウトをし、一部の人たちは荷物を預ける。タクシーで弘前城の追手門まで行く。雪は降り続けている。雪の中、弘前城天守閣を目指して歩いて行く。雪の中でも桜の剪定作業をしている。太い枝を切り取るだけでなく、小さな枝も切っていて、希望者に渡しているようだ。3階建ての天守閣前で集合記念写真を撮る。



しばらく雪の降る中を散策して、藤田記念庭園に向かう。しかし、庭園は冬季休園だ。一部は無料で見学できるので、雪の中しだれ桜などを見学。晴れていれば岩木山を眺めることができるという。藤田記念庭園は、弘前出身の実業家・藤田謙一の別邸として大正時代に造られた日本庭園と、国登録有形文化財にもなっている旧藤田家別邸洋館などの建築群。洋館はステンドグラスがきれいだ。また、大広間とサンルームを利用した大正浪漫喫茶室は窓際が特等席だ

った。各自、コーヒー、ビールやシードルを飲みながら、窓から降り続く雪を眺めるのは、ゆったりとしてよかった。



旧弘前市立図書館を見学。建物がロシア風のように見える洋館。内部を無料で見学できた。そばの弘前市立山車展示館で、でかい太鼓や山車を見学する。太鼓の皮は、牛の皮を利用しているという。

昼食のおいしそうなところを聞く。蕎麦屋はというと、高砂と言う店を教えてくれた。旧東奥義塾外人教師館を軽く内部を見学し、そばの弘前の古い建物のミニチュア展示を見学。

高砂は、テーブル席は一杯で座敷に上がる。ビールを頼むと、店ではアルコールは扱っていないという。なんと言うことだ、残念。蠟山持参の残りの焼酎を、お茶割りで飲むことにした(蠟山と小林の二人だけ)。小林はまたもりそばと温かいそばを頼む。この店では、もりとざるとの違いは海苔がのっているかというのではなく、そばの量がざるの方が多いいという。金木のレストランでの津軽そばより、細くしっかりとおいしかった。



青森銀行記念館（旧五十九銀行本店本館）に入る。函館は石造りが多いが、ここは木造で作ることにしたという。柱等は青森産のケヤキ、建具も青森産のひばが使われている。柱がなく、高い天井の広い空間がすばらしい。記念館の案内人が親切に1階の展示物を一通り説明してくれた。我々子供の頃の1円とか50銭硬貨は懐かしい。金庫のダイヤルは数字でなく、イ、ロ、ハ、ニでできている。2階の大会議室の格天井は金唐皮紙が施されている。



次は、最勝院五重塔に向かって歩いて行く。兎が迎えてくれる。この五重塔は東北一の美塔と言われている。3代藩主信義が計画し明暦2年に着工。寛文7年に完成。



最後は、津軽藩ねぶた村。歩いては大変なのでタクシーで向かう。時間もたっぷり残っているので、そばの城下町の武家屋敷を

見学する。金曜日は旧伊藤家が開かれている。江戸時代に代々の藩医を務めた伊藤家の居宅で、市が運営しているという。係りの女性は、見学者が訪れるまではこたつに入っているようだ。激しく雪が降っている中、伊藤家の門前で写真を撮る。



続いて、重要文化財の石場家住宅を見学。雪よけの屋根である雁木の下を歩いて、入り口の小さな古びた酒屋に入る。入場料を払って奥に入っていくと広々とした土間と多くの座敷がある。奥には蔵もある。この家に嫁いだ老婆が説明をしてくれる。石場家は、雑貨荒物を扱っていた商家だったという。土間には井戸もあったが、水の汚れで現在は使用していない。土間は底冷えがする。ここの座敷で寝起きをしているのかと聞くと、暖房効果がないので、隣の小さな家に住んでいるという。

最後の津軽藩ねぶた村見学開始。弘前のねぶたは扇型が主流だという。金魚ねぶたはかわいい。はやし太鼓の実演をしてくれる。地域により打ち方が違っているという。続いて夫婦二名による津軽三味線の演奏を聴く。これで3回目の実演奏を聴けた。2階から岩木山を眺めることができたが、やはり頂上は雲の中だ。見学終了後、駅までタクシーで行くことにした。横山さんは林檎

屋でリンゴを購入する。



東横インで荷物を受け取り、バス停に行く。時刻表を見ると一本前のバスに乗れるという。弘前で時間を過ごすより、青森空港で時間を過ごす方が安心。弘前駅前 16:16 発で、17:10 に青森空港に着く。途中岩木山が左手に見えていたが、やはり頂上は雲の中だ。空港の売店で、お土産を購入する人が多い。青森空港の2階出発フロアにあるレストランで、出発までゆっくりと飲食を始める。横山さんはイケメンの従業員が気になる。蠟山は名札がカタカナであったので、外人のイケメンだと横山さんに言う。しかし、確認すると名札に見えたカタカナはレストランのライアンで、日本人の XX ですよと言う。最後に今回の旅行の精算をする。62,000 円で当初の予算 59,025 円とほぼ同じ。素晴らしい。蠟山さん、いろいろ

とありがとうございました。



チェックインをして、出発までゲート前で待つ。ここは窓側の人を優先して搭乗させている。普段は、後半の席からやっているが、新しい試みだなと感心する。

青森空港 5 分遅れで 20:35 発、22:00 に羽田空港に着く。

次回の計画もあるようです。楽しみに待っていきましょう。